

授業計画(シラバス)

科目名	簿記会計基礎	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 12 時間
学習到達目標	テキストの内容を理解し、基礎問題を解けるようになる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記3級、合格トレーニング日商簿記3級		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	簿記の基礎、商品売買、現金預金、小口現金	簿記の5要素、仕訳と転記、商品売買、現金と当座預金、小口現金制度
	2	売上債権	クレジット売掛金、手形取引、電子記録債権債務
	3	その他の取引Ⅰ、Ⅱ	貸付金・借入金、利息、固定資産
	4	その他の取引Ⅲ、帳簿、試算表	仮払金、仮受金、給与、帳簿記入、試算表
	5	決算整理	売上原価、現金過不足、貸倒れ、減価償却、貯蔵品
	6	決算整理、後T/B、精算表、英米式決算	当座借越、経過勘定項目、後T/B、精算表、帳簿の締め切り
	7	FSの作成、株式の発行、配当、税金	BS・PLの作成、資本金、剰余金の配当、法人税・住民税・事業税、消費税
	8	証憑と伝票	証憑、伝票
	9	第1問対策	仕訳
	10	第2問対策	帳簿記入
	11	第3問対策	財務諸表
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	簿記会計検定対策	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 12 時間
学習到達目標	問題演習や模擬試験問題を通して、日商簿記3級合格レベルへ点数の底上げをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記3級、合格トレーニング日商簿記3級、模擬試験問題		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	13	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	14	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	15	総まとめ	総復習
	16	総まとめ	総復習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門概論 I A	指導担当者名	大坂 友子
実務経験	-	実務経験:	-
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ○	演習: -	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税法について基本的な考え方を理解する。 ・源泉徴収や確定申告の基本的な考え方を理解し、実務において確定申告書等を作成できるようにする。 ・全経が主催する消費税法能力検定試験3級の合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	消費税の概要	消費税の基礎知識
	18	消費税の計算パターン	消費税法の構成・消費税確定申告書の様式・消費税のステップ
	19	取引の分類 I	課税取引について
	20	取引の分類 II	非課税取引について
	21	取引の分類 III	免税取引について
	22	納税義務者	原則・課税事業者の選択・納税義務の免除特例
	23	課税標準・税率 資産譲渡等の時期	課税標準の概要・国内取引・輸入取引の課税標準・税率など
	24	仕入税額控除	個別対応方式・一括比例配分方式
	25	仕入れ・売上げに係る対価の返還等	仕入れ・売上げに係る対価の返還について
	26	簡易課税	みなし仕入率・具体的な計算方法
	27	申告・納付	確定申告・中間申告
	28	納税地	納税地
	29	問題練習①	全経消費税法3級の模擬問題①
	30	問題練習②	全経消費税法3級の模擬問題②
31	問題練習③	全経消費税法3級の模擬問題③	
32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門概論 I A	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	日商簿記検定2級の合格のための仕訳や帳簿記入の基礎から応用までを理解し、解けるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記2級、合格トレーニング日商簿記2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	簿記一巡、財務諸表、商品売買	BS、PL、商品売買の記帳方法、返品・割戻
	18	現金預金、債権債務	現金の種類、当座預金、クレジット売掛金、手形、電子記録債権債務
	19	有価証券、有形固定資産	有価証券の種類と期末評価、減価償却、改良・修繕、圧縮記帳
	20	リース、無形固定資産と研究開発費	ファイナンスリース、オペレーティングリース、無形固定資産、研究開発費
	21	引当金、外貨換算会計	貸倒引当金、その他の引当金、外貨建取引、為替予約
	22	税金、税効果会計	法人税等、消費税、一時差異と永久差異、将来減算一時差異、全部純資産直入法
	23	株式の発行、配当と処分	純資産、株主資本変動計算書
	24	決算手続、収益の認識基準	後TB、精算表、サービス業、収益認識
	25	本支店会計、合併と事業譲渡	本支店会計、合併、事業譲渡
	26	連結会計	資本連結
	27	連結会計	成果連結、株主資本等変動計算書
	28	製造業会計、問題演習	工的商業簿記、トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	29		
	30	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
31	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習	
32	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門概論 I B	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ○	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小売業における販売活動と店舗運営の基本を理解する。 ・消費者行動を踏まえた販売促進や売場づくりについて説明できる。 ・販売データや商品管理の基礎を理解し、店舗運営に活用できる。 ・リテールマーケティング(販売士)検定試験に対応できる知識と問題解決力を身につけ、検定合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	販売士ハンドブック(基礎編)・スィスイウかる販売士3級問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26	販売士検定対策 I	販売士検定対策答案練習①, ②
	27	販売士検定対策 II	販売士検定対策答案練習③, ④
	28	販売士検定対策 III	販売士検定対策答案練習⑤, ⑥
	29	販売士検定対策 IV	販売士検定対策答案練習⑦, ⑧
	30	販売士検定対策 V	販売士検定対策答案練習⑨, ⑩
	31	販売士検定対策 VI	販売士検定対策答案練習⑪, ⑫
32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門概論 I B	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	日商簿記検定2級の合格のための仕訳や帳簿記入の基礎から応用までを理解し、解けるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記2級、合格トレーニング日商簿記2級、模擬試験問題		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	簿記一巡、財務諸表、商品売買	BS、PL、商品売買の記帳方法、返品・割戻
	18	現金預金、債権債務	現金の種類、当座預金、クレジット売掛金、手形、電子記録債権債務
	19	有価証券、有形固定資産	有価証券の種類と期末評価、減価償却、改良・修繕、圧縮記帳
	20	リース、無形固定資産と研究開発費	ファイナンスリース、オペレーティングリース、無形固定資産、研究開発費
	21	引当金、外貨換算会計	貸倒引当金、その他の引当金、外貨建取引、為替予約
	22	税金、税効果会計	法人税等、消費税、一時差異と永久差異、将来減算一時差異、全部純資産直入法
	23	株式の発行、配当と処分	純資産、株主資本変動計算書
	24	決算手続、収益の認識基準	後TB、精算表、サービス業、収益認識
	25	本支店会計、合併と事業譲渡	本支店会計、合併、事業譲渡
	26	連結会計	資本連結
	27	連結会計	成果連結、株主資本等変動計算書
	28	製造業会計、問題演習	工的商業簿記、トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	29		
	30	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
31	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習	
32	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門実務 I A	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ○	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小売業における販売活動と店舗運営の基本を理解する。 ・消費者行動を踏まえた販売促進や売場づくりについて説明できる。 ・販売データや商品管理の基礎を理解し、店舗運営に活用できる。 ・リテールマーケティング(販売士)検定試験に対応できる知識と問題解決力を身につけ、検定合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	販売士ハンドブック(基礎編)・スィスイウかる販売士3級問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	検定試験について / 学習の仕方について / 各科目の内容について
	2	流通の役割と商品の分類 I	流通の役割 / 商品の分類
	3	流通の役割と商品の分類 II	商品の流通経路 / 現代の流通の特徴
	4	店舗販売と無店舗販売 I	店舗販売と無店舗販売 / 店舗販売の業態①
	5	店舗販売と無店舗販売 II	店舗販売の業態②
	6	店舗販売と無店舗販売 III	チェーンオペレーション / 商業集積
	7	店舗販売と無店舗販売 IV	無店舗販売 / 店舗販売と無店舗販売の特徴
	8	店舗販売と無店舗販売 V	電子商取引 / 小売業の類型まとめ
	9	マーチャндаイジングの基本	マーチャндаイジングの基本
	10	マーチャндаイジングの基本	販売計画の基本 / 仕入計画
	11	商品管理の基本	商品管理 / 在庫管理
	12	価格設定の基本	価格設定の基本 / 平均値入額の計算
	13	物流の基本	物流の基本 / 物流の効率化
	14	情報通信技術の活用	POSシステム / バーコードとRFID / EDI
	15	期末試験対策	小売業の類型・マーチャндаイジング ポイントのおさらい
	16	期末試験	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	専門実務 I A	指導担当者名	高橋 大祐
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ○	演習: -	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 8 時間
学習到達目標	工業簿記の基礎知識の習得と問題演習による計算力の強化。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日商簿記2級工業簿記合格テキスト、同トレーニング(TAC出版)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	材料費、労務費、経費会計	工業簿記の基礎となる材料労務費経費会計
	18	材料費、労務費、経費会計	工業簿記の基礎となる材料労務費経費会計
	19	個別原価計算	個別原価計算における製造間接費の処理方法
	20	部門別個別原価計算	部門別の場合の手続き
	21	総合原価計算	月末仕掛品原価の計算と加工費の計算
	22	総合原価計算	仕損、減損がある場合の計算方法
	23	総合原価計算	工程別総合原価計算と組別・等級別総合原価計算の手続き
	24	標準原価計算	パーシャルプランとシングルプランの違い、直接材料・直接労務費・製造間接費の差異分析
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門実務 I B	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ○	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小売業における販売活動と店舗運営の基本を理解する。 ・消費者行動を踏まえた販売促進や売場づくりについて説明できる。 ・販売データや商品管理の基礎を理解し、店舗運営に活用できる。 ・リテールマーケティング(販売士)検定試験に対応できる知識と問題解決力を身につけ、検定合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	販売士ハンドブック(基礎編)・スィスイウかる販売士3級問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	17	オリエンテーション ストアオペレーションの概要	開店の業務準備 / 日常の運營業務 チェックアウト業務 / 接客の基本 / クレームや返品に対応
	18	包装技術の基本	包装の意義と目的 / 種類と方法 ひものかけ方、リボンのつくり方 / 和式進物包装
	19	陳列の基本	陳列とは / 各種陳列方法
	20	店舗照明と色彩の活用	店舗照明の基本 / 色彩の活用
	21	マーケティングの基本 I	マーケティングの基本 / 商品政策の基本 / 価格政策の基本
	22	マーケティングの基本 II	立地政策の基本 / プロモーション政策
	23	観光マーケティングの基本	観光マーケティングについて
	24	消費者行動と市場調査	消費者行動 / 市場調査の基本
	25	期末試験	マーチャンダイジングの基本 / 販売計画の基本 I
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	専門実務 I B	指導担当者名	高橋 大祐
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 8 時間
学習到達目標	工業簿記の基礎知識の習得と問題演習による計算力の強化。その後答練や過去問演習による日商簿記2級合格点到達。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日商簿記2級工業簿記合格テキスト、同トレーニング(TAC出版)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	標準原価計算	パーシャルプランとシングルプランの違い、直接材料・直接労務費・製造間接費の差異分析
	25	直接原価計算、本社工場会計	直接原価計算の特長と固定費調整、CVP分析、高低点法、本社工場会計の概要
	26	直接原価計算、本社工場会計	直接原価計算の特長と固定費調整、CVP分析、高低点法、本社工場会計の概要
	27	答練、過去問	演習と解説、復習
	28	答練、過去問	演習と解説、復習
	29	答練、過去問	演習と解説、復習
	30	答練、過去問	演習と解説、復習
31	答練、過去問	演習と解説、復習	
32	答練、過去問	演習と解説、復習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門演習 I A	指導担当者名	市川 美佳
実務経験	東京アパレル会社勤務 (デザイナー・パタンナー・小物担当)		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ー	演習: ○	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	ディスプレイ、ビジュアルプレゼンテーションを通して視覚効果を重要視し、売り場や販売に関わる幅広い知識、造形、感性、情報等の基礎を学ぶ。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	文化ファッション大系ファッション流通講座 ディスプレイ・VP・VMD(文化服装学院編)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	ディスプレイ「秋」 グループ作成 企画書作成
	18	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	ディスプレイ「秋」 材料買い出し
	19	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	ディスプレイ「秋」 グループ実習①
	20	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	ディスプレイ「秋」 グループ実習② 完成
	21	ラッピング	ラッピング③ 斜め包み
	22	ラッピング	ラッピング④ リボン結び
	23	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	ディスプレイ「冬」 グループ作成 企画書作成
	24	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	ディスプレイ「冬」 材料買い物
	25	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	ディスプレイ「冬」 グループ実習①
	26	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	ディスプレイ「冬」 グループ実習②完成
	27	ラッピング	ラッピング⑤ リボン結び
	28	ラッピング	ラッピング⑥ 基礎知識 のし袋
	29	ラッピング	ラッピング⑦ 基礎知識 金封
	30	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	確認テスト 説明
	31	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)	確認テスト 説明
	32	期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門演習 I A	指導担当者名	高橋 大祐
実務経験		実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	問題演習を繰り返し、日商簿記3級合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日商簿記3級合格トレーニング(TAC出版)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服
	2	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服
	3		
	4	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服
	5	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服
	6	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服
	7	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服
	8	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服、模擬試験の解きなおし
	9	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服、模擬試験の解きなおし
	10	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服、模擬試験の解きなおし
	11	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服、模擬試験の解きなおし
	12	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服、模擬試験の解きなおし
	13	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服、模擬試験の解きなおし
	14	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服、模擬試験の解きなおし
	15	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服、模擬試験の解きなおし
	16	問題演習	トレーニング問題を使った苦手論点の克服、模擬試験の解きなおし
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門演習 I B	指導担当者名	小原 美和
実務経験	—	実務経験:	—
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: 一	演習: 〇	実習: 一 実験: 一
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実践重視: ショップ見学や模擬販売企画を通じて、現場感覚を養う。 ・分析力育成: ブランド戦略を多角的に分析する力を身につける。 ・発表力強化: ブランド研究や販売企画の発表を通じてプレゼンを行うスキルを習得する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	指導担当者作成のプリントを使用する		
授業外学習の方法	普段からいろいろな業態の店舗を見学する		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	囲りエンターション	ガイダンス・昨年度の復習
	18	ブランド演出のトレンド分析	事例調査・ディスカッション
	19	ブランドの「世界観」とは何か	コンセプトワーク
	20	ブランドのトーン&マナー設計	ビジュアル分析演習
	21	ブランドストーリーテリング	ストーリー設計ワーク
	22	空間演出の基本と応用	店舗・イベント事例分析
	23	ブランド体験のデザイン	五感と演出の関係
	24	SNSとブランド演出	SNS活用事例研究
	25	デジタル技術と演出(AR/VR等)	技術紹介・演出案検討
	26	ブランド×サステナビリティ	社会的価値との連動研究
	27	ブランド比較分析ワーク①	グループによる分析①
	28	ブランド比較分析ワーク②	グループによる分析②・発表
	29	ターゲットペルソナ設計	顧客像の明確化
	30	ブランド演出プラン設計①	コンセプト立案
31	ブランド演出プラン設計②	ビジュアル・空間演出設計	
32	発表・フィードバック	プレゼン／相互講評	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	専門演習 I B	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	問題演習を通して、日商簿記検定2級の合格のための計算力向上を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記2級、合格トレーニング日商簿記2級、模擬試験問題		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	17	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	18	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	19	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	20	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	21	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	22	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	23	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	24	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	25	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	26	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	27	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	28	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	29		
	30	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
31	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習	
32	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習	
履修上の留意点			
<p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	プロジェクトデザイン I	指導担当名	小原 美和
実務経験	—	実務経験:	—
開講時期	通年	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: —	演習: —	実習: ◎ 実験: —
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	◇アクティブラーニングを取り入れ、学生が主体となり、「ぼくらの音楽祭」運営の全過程に携わる。 ・グループワークを通して色々な意見を取り入れ、協力して作業するチームワーク力を養う。 ・世の中のニーズや付加価値に着目し、集客について考える。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	企画事前資料他		
授業外学習の方法			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4	オリエンテーション	昨年度のイベント動画の視聴 / イベントの趣旨説明 / 自己紹介
	5	今後の活動内容の共有	グループ分け / 担当(役割)を決める
	6	交流会	BBQをしながら主催者と学生の交流を図る
	7	マーケティングとは	主催者講話 / 協賛案内の作成 I
	8	企業の求める人材とは	座談会 「就活について考える」
	9	地域活性とは	主催者講話 / 協賛案内の作成 II
	10	イベント会場レイアウト	設営レイアウトの検討
	11	講演会参加	『支援の現場で学んだ「ひと・チーム・世界」の変えかた』
	12	プレゼンテーションとは	効果的なプレゼンについて / 協賛依頼文の作成と練習
	13	協賛依頼体験	協賛依頼体験 / 協賛金受け取り体験
	14	どう生きたいか	主催者講話 / 「働くとは」・「生きるとは」
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	プロジェクトデザイン I	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	◇アクティブラーニングを取り入れ、学生が主体となり、最終到達点を目指す。 ・グループワークを通して色々な意見を取り入れ、協力して作業するチームワーク力を養う。 ・世の中のニーズや付加価値に着目し、集客について考える。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	企画事前資料他		
授業外学習の方法			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17	ミーティング動画撮影	出演者・出店者用の向けた動画の制作
	18	案内の送付作業	出演者・出店者に決定通知書を送付
	19	司会進行表の作成	司会進行の台本作成 / その練習
	20	グループ活動	グループごとの役割の遂行 / 進行状況の確認
	21	お礼状の作成作業	イベントの実施終了後発送のお礼状の作成
	22	イベント実施	イベント当日の最終確認 / イベントの実施
	23	活動の振り返り	グループごとに活動を振り返る / 発表資料の作成
	24	反省会	全活動を振り返る / グループごとに発表
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門応用 I	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科1年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会計の基本的な考え方を理解できる ・貸借対照表・損益計算書・キャッシュフローの基本を説明できる ・財務諸表から企業の安全性・収益性を簡単に分析できる ・ビジネス会計検定3級の合格を目指す 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ビジネス会計検定3級 公式テキスト・公式問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	オリエンテーション 会計とは？	授業説明／会計の役割／企業活動とお金の流れ
	18	財務諸表の基礎	財務諸表とは／B/S・P/L・C/Fの概要
	19	貸借対照表①	資産・負債・純資産の考え方
	20	貸借対照表②	B/Sの読み方／企業の安全性
	21	損益計算書①	売上・費用・利益の構造
	22	損益計算書②	5つの利益／収益性分析
	23	キャッシュ・フロー計算書	お金の流れと利益の違い
	24	財務分析①	安全性分析(自己資本比率など)
	25	財務分析②	収益性分析(売上高利益率など)
	26	財務分析③	生産性分析／企業比較ワーク
	27	株式会社と会計	株式・配当・IR情報の基礎
	28	実際の企業分析	有名企業の決算書を読むグループワーク
	29	検定対策①	ビジネス会計検定3級頻出問題演習①
	30	検定対策②	ビジネス会計検定3級頻出問題演習②
	31	検定対策③	ビジネス会計検定3級頻出問題演習③
	32	期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I	指導担当者名	小原 美和
実務経験	—	実務経験:	—
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: 一	実習: 一 実験: 一
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア(自分の生き方や働き方)について考え、計画することを学ぶ ・授業は、自分を知る・他人を知る・社会を知るの3つをキーワードにして展開する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	指導担当者作成のプリントを使用する		
授業外学習の方法	就職活動に向けた準備の中で確認しながら役立てる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	オリエンテーション 就職活動の確認	提出書類、履歴書等の書き方他
	18	就職活動の確認	自己PR・志望理由の確認
	19	言葉遣い	間違いやすい敬語の復習
	20	ビジネスメールの作り方	ビジネスメールの定型 ビジネスメールの注意点
	21	電話対応	正しい電話の受け方、かけ方
	22	キャリアデザインとは	自分を知る・他人を知る・社会を知
	23	コミュニケーションするとは	正確に伝えること ハウレンソウの大切さ
	24	自分を発見しよう	マインドマップの作成
	25	自分のPOPを作ろう	自分の特徴を知ろう
	26	自分をアピールしよう	自分を上手にアピールするには
	27	自己PRの作成	具体的なエピソードをうまく活用させる
	28	志望理由	志望企業でなくてはいけない理由を明確する
	29	求職票作成	自分の履歴を確定させる
	30	求職票受理面接練習	入退室・挨拶を中心に練習
	31	求職票受理面接練習	質問への回答の仕方・言葉使いを中心に練習
32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論 I	指導担当者名	小原 美和
実務経験	—	実務経験:	—
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: 一	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を的確に評価・判断して取捨選択していく「状況判断力」の取得 ・情報を自分なりに解釈(理解)して意見に反映させていく「情報解釈力」の取得 ・解釈したものを他者に対して的確に発信していく「自己表現力」の取得 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集		
授業外学習の方法	日常生活においてコミュニケーション論で学んだことを活用する。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	コミュニケーションとは
	2	聞く力について①	目的に即して聴く
	3	聞く力について②	傾聴・質問する
	4	話す力について①	目的を意識する
	5	話す力について②	話を組み立てる
	6	話す力について③	言葉を選び抜く
	7	話す力について④	表現・伝達する
	8	ロールプレイング①	来客対応・電話対応
	9	ロールプレイング②	アポイント・訪問・挨拶
	10	ロールプレイング③	チーム・コミュニケーション
	11	ロールプレイング④	接客・営業
	12	ロールプレイング⑤	クレーム対応
	13	ロールプレイング⑥	会議・取材・ヒアリング
	14	就職対策	面接練習①
	15	就職対策	面接練習②
	16	期末試験	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習	指導担当者名	今野沙織
実務経験		実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職採用試験に向けての準備(一般教養、SPI) ・就職支援サイト等を活用しWeb模擬試験を受験 ・就職に対するモチベーションの向上 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	オリエンテーション	自己紹介、今後の授業の進め方
	18	国語	漢字の読み(音読み、訓読み)、ビジネス社会でよく使われる用語
	19	社会	都道府県、県庁所在地
	20	数学	式と計算、速さの基礎
	21	英語	基本単語、時事英語、熟・英略語
	22	英語	発音、ことわざ、文法
	23	数学	旅人算、通過算、流水算数
	24	数学	流水算、割合の基礎
	25	社会	世界の地理
	26	社会	日本史、世界史
	27	国語	漢字の書き取り、同意語と類義語
	28	国語	反対語、四字熟語
	29	数学	図形と角度
	30	国語・社会・数学・英語	総復習
31			
32			
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎 I		指導担当者名	高橋幸代	
実務経験	IT会社にてインストラクター業務に18年間従事した経歴			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	経営・情報大学科2年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: -	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	6 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に大切な8つの意識(顧客・品質・納期・時間・目標・協調・改善・コスト)を身につける ・職場の基本的なマナーや、仕事を進めるコミュニケーションについて基本を身につける 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	ビジネスとコミュニケーションの基本	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアと仕事へのアプローチ ・仕事の基本となる8つの意識 		
	18	ビジネスとコミュニケーションの基本	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとビジネスマナーの基本 ・指示の受け方と報告、連絡・相談 		
	19	ビジネスとコミュニケーションの基本	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方と聞き方のポイント ・来客応対と訪問の基本マナー 		
	20	ビジネスとコミュニケーションの基本	<ul style="list-style-type: none"> ・会社関係でのつき合い ・練習問題 		
	21	仕事の実践とビジネスツール	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事への取り組み方 ・ビジネス文書の基本 		
	22	仕事の実践とビジネスツール	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の基本 		
	23	仕事の実践とビジネスツール	<ul style="list-style-type: none"> ・電話応対 		
	24	仕事の実践とビジネスツール	<ul style="list-style-type: none"> ・電話応対 		
	25	仕事の実践とビジネスツール	<ul style="list-style-type: none"> ・統計・データの読み方、まとめ方 		
	26	仕事の実践とビジネスツール	<ul style="list-style-type: none"> ・統計・データの読み方、まとめ方 		
	27	仕事の実践とビジネスツール	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集とメディアの活用 ・会社を取り巻く環境と経済の基本 		
	28	仕事の実践とビジネスツール	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題 		
	29	模擬問題	解答・解説		
	30	模擬問題	解答・解説		
31					
32					
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅱ	指導担当者名	小原 美和
実務経験		実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: -	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を的確に評価・判断して取捨選択していく「状況判断力」の取得 ・情報を自分なりに解釈(理解)して意見に反映させていく「情報解釈力」の取得 ・解釈したものを他者に対する的確に発信していく「自己表現力」の取得 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集・指導担当者作成のプリントを使用		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	コミュニケーションとは	
	18	聞く力について①	目的に即して聴く
	19	聞く力について②	傾聴・質問する
	20	話す力について①	目的を意識する
	21	話す力について②	話を組み立てる
	22	話す力について③	言葉を選び抜く
	23	話す力について④	表現・伝達する
	24	コミュニケーション実践①	来客対応
	25	コミュニケーション実践②	電話対応
	26	コミュニケーション実践③	アポイント・訪問・挨拶
	27	コミュニケーション実践④	情報共有の重要性
	28	コミュニケーション実践⑤	チーム・コミュニケーション
	29	コミュニケーション実践応用①	接客・営業
	30	コミュニケーション実践応用②	クレーム対応
	31	コミュニケーション実践応用③	会議・取材・ヒアリング
32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	プロジェクトデザインⅡ	指導担当名	小原 美和
実務経験	—	実務経験:	—
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ○	実習: ◎ 実験: —
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	観光業・接客業に関わる知識を養うとともに、企画・運営を行う。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6	オリエンテーション	昨年度のイベントプロデュースの内容の振り返り
	7	ツアー企画	今年度の実施に向けて情報収集
	8	ツアー企画	今年度の実施に向けて情報収集
	9	ツアー企画	ツアー準備(行程、体験、会場コーディネート、広報、イベント)
	10	ツアー企画	ツアー準備(行程、体験、会場コーディネート、広報、イベント)
	11	ツアー企画	ツアー準備(行程、体験、会場コーディネート、広報、イベント)
	12	ツアー企画	ツアー準備(行程、体験、会場コーディネート、広報、イベント)
	13	ツアー企画	ツアー準備(行程、体験、会場コーディネート、広報、イベント)
	14	ツアー企画	ツアー準備(行程、体験、会場コーディネート、広報、イベント)
	15	ツアー企画	中間発表の準備
	16	ツアー企画	中間発表
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	プロジェクトデザインⅡ	指導担当者名	小原 美和
実務経験	—	実務経験:	—
開講時期	通期	対象学科学年	経営情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: — 実験: —
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	観光業・接客業に関わる知識を養うとともに、企画・運営を行う。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	ツアー企画	ツアー準備(行程、体験、会場コーディネート、広報、イベント)
	18	ツアー企画	ツアー準備(行程、体験、会場コーディネート、広報、イベント)
	19	ツアー企画	モニターツアー最終準備
	20	ツアー企画	モニターツアー実施
	21	ツアー企画	ツアー報告会実施
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	接客心理学	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習:	実習: ◎ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・接客心理の基礎理論を理解できる ・顧客心理を踏まえた接客対応ができる ・販売促進につながる心理効果を説明できる ・検定試験レベルの知識を習得し、接客心理検定に合格する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	接客心理検定対策テキスト・教員作成配布プリント・過去問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	接客心理とは
	2	商品属性の研究 I	属性名と属性値
	3	商品属性の研究 II	属性値について
	4	商品属性の研究 III	認知について / フォアラー効果
	5	商品属性の研究 IV	ニュールック心理学 / 記憶について
	6	情報とコミュニケーションの区分 I	情報とコミュニケーション
	7	情報とコミュニケーションの区分 II	対話能力と言語能力について
	8	接客コミュニケーションテクニック	ポジティブハロー効果 / ザイアンス効果 / 初頭効果 / OATH理論
	9	接客コミュニケーションテクニック	マズローの段階欲求説 / コントラスト / アンカリング / スウェイ(損失回避)
	10	接客コミュニケーションテクニック	スウェイ(コミットメント・価値基準先行 ほか)
	11	接客コミュニケーションテクニック	スウェイ(笑顔の効果・返法制と好意の法則 ほか)
	12	接客コミュニケーションテクニック	スウェイ(カクテルパーティ効果・カタルシス効果 ほか)
	13	接客コミュニケーションテクニック	スウェイ(テンション・リダクション・バンドワゴン効果 ほか)
	14	接客コミュニケーションテクニック	スウェイ(ヒューリスティックバイアス ほか)
	15	接客コミュニケーションテクニック	スウェイ(希少性の原理・色彩心理 ほか)
	16	接客コミュニケーションテクニック	スウェイ(チョコレートパラドックス・文脈効果 他)
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	接客心理学		指導担当者名	小原 美和	
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴			実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	経営情報大学科2年		
授業方法	講義: ◎	演習:	実習: ○	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・接客心理の基礎理論を理解できる ・顧客心理を踏まえた接客対応ができる ・販売促進につながる心理効果を説明できる ・検定試験レベルの知識を習得し、接客心理検定に合格する 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	接客心理検定対策テキスト・教員作成配布プリント・過去問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	前期復習 I	ポイントを押さえた検定に向けた復習		
	18	前期復習 II / 後期目標設定	復習後、後期の目標を設定		
	19	ロールプレイ I	信頼関係構築の心理 ケース問題		
	20	ロールプレイ II	接客会話トレーニング		
	21	ロールプレイ III	クレーム対応実践		
	22	検定対策 答案練習 I	解答と解説		
	23	検定対策 答案練習 II	解答と解説		
	24	検定対策 答案練習 III	解答と解説		
	25	検定対策 答案練習 IV	解答と解説		
	26	検定対策 答案練習 V	解答と解説		
	27	検定対策 答案練習 VI	解答と解説		
	28	検定対策 答案練習 VII	本試験形式での解答 解説		
	29	まとめ	振り返り		
	30	ケーススタディ I	ケースごとにどの心理効果が有効かを話し合う		
	31	ケーススタディ II	ケースごとにどの心理効果が有効かを話し合う		
32	期末試験				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	サービス接客	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に予定している「サービス接客検定3級」の検定合格を目指す ・ビジネスの場での接客について具体的な考え方、話し方、行動の仕方などについて学ぶ ・「サービスとは相手に満足を提供することである」という基本的な考え方を理解したうえで接客ができる接客者を目指す 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	<p>テキストは「サービス接客受験ガイド3級」を使用</p> <p>サービス接客実問題3級、過去問題から検定対策プリントを作成し、検定受験対策に使用</p>		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	学習の目的・目標の確認
	2	必要とされる要件①	身近なサービス業について考える
	3	必要とされる要件②	サービスマインドを意識して事例研究を考える
	4	従業要件①	「基本接客のマナー」について考える
	5	従業要件②	「基本接客のマナー」について考える
	6	サービス知識①	サービスの向上には何が大切か
	7	サービス知識②	マニュアル対応について考える
	8	従業知識①	商業用語①
	9	従業知識②	商業用語②
	10	従業知識③	経済用語①
	11	従業知識④	経済用語②
	12	社会常識①	ことわざ・慣用語
	13	社会常識②	慣用語・物の数え方
	14	人間関係	愛嬌の効果について考える
	15	接客知識	態度・振る舞いについて考える
	16	話し方・服装	接客用語、身だしなみ、ユニフォームなど、感じの良さを引き出す
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	専門概論ⅡB		指導担当者名	小原 美和	
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴			実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	経営情報大学科2年		
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に予定している「サービス接客検定3級」の検定合格を目指す ・ビジネスの場での接客について具体的な考え方、話し方、行動の仕方などについて学ぶ ・「サービスとは相手に満足を提供することである」という基本的な考え方を理解したうえで接客ができる接客者を目指す 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	<p>テキストは「サービス接客受験ガイド3級」を使用</p> <p>サービス接客実問題3級、過去問題から検定対策プリントを作成し、検定受験対策に使用</p>				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	問題処理・環境整備①	苦情・在庫切れ・修理・問い合わせについての対応		
	18	問題処理・環境整備②	店舗管理(フロアコントロール)について		
	19	金品管理・社交業務①	金銭の授受(言葉と動き)について		
	20	金品管理・社交業務②	冠婚葬祭の社会常識について		
	21	模擬試験1	解答・解説		
	22	模擬試験2	解答・解説		
	23	模擬試験3	解答・解説		
	24	模擬試験4	解答・解説		
	25	要点整理	重要ポイントのまとめ		
	26	社内文書と社外文書	定型を理解し、簡単な文章を作成		
	27	ビジネス文書	書類送付書等の作成		
	28	文書の取り扱い	「秘」扱い文書・郵便の知識		
	29	ビジネスメールⅠ	メールの機能の活用		
	30	ビジネスメールⅡ	定型メールを理解し、メール文を作成		
	31	ビジネスメールⅢ	定型メールを理解し、メール文を作成		
32	期末試験				
履修上の留意点					
<p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	アロマセラピー基礎	指導担当者名	高林 有里
実務経験	アロマセラピー実務に22年間従事		実務経験： 有
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義：○	演習：-	実習：- 実験：-
単位数	1 単位	総時間	30 時間 2 時間
学習到達目標	基本的なアロマの知識を習得し日常生活への取り入れ方、就職後の活用法を身につける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	アロマセラピー検定公式テキスト2級、アロマセラピー検定合格テキスト&模擬問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	オリエンテーション	教科書使用
	18	アロマセラピーとは	教科書使用
	19	アロマセラピーが活躍するステージ	教科書使用
	20	アロマセラピーの基本	教科書使用
	21	精油について	教科書確認、演習
	22	安全上の注意	教科書確認、演習
	23	精油のプロフィール	教科書確認、演習
	24	歴史	教科書確認、演習
	25	手作り作成	教科書確認、演習
	26	基材論	教科書確認、演習
	27	環境論	教科書確認、演習
	28	アロマ体験ワークショップ	パーソナルアロマフレグランス
	29	アロマ体験ワークショップ	バスソルト・ルームスプレー
	30	アロマ体験ワークショップ	アロマバームづくり
31	期末試験		
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	パーソナルカラー理論		指導担当者名	小池 久子	
実務経験	各企業の色彩アドバイザー、各種団体のカラーに関する講演・講座等に20年従事している			実務経験:	有
開講時期	通期		対象学科学年	経営・情報大学科2年	
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: -	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	色彩の基礎的な理論や体系的な知識を身に付け、色彩検定3級を受験し、その資格を取得することを目標とする				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト、CUSカラーカード185				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション 色のはたらき、眼のしくみ	テキストP6～21、課題プリント		
	2	オリエンテーション 色のはたらき、眼のしくみ	テキストP6～21、課題プリント		
	3	照明と色の見え、混色	テキストP22～30、課題プリント、ミニテスト		
	4	照明と色の見え、混色	テキストP22～30、課題プリント、ミニテスト		
	5	色の分類と三属性、PCCS	テキストP31～48、課題プリント		
	6	色の分類と三属性、PCCS	テキストP31～48、課題プリント		
	7	色の心理効果	テキストP49～57、課題プリント、ミニテスト		
	8	色の心理効果	テキストP49～57、課題プリント、ミニテスト		
	9	色の視覚効果	テキストP58～68、課題プリント、ミニテスト		
	10	色の視覚効果	テキストP58～68、課題プリント、ミニテスト		
	11	色相を手がかりにした配色	テキストP69～83、課題プリント、ミニテスト		
	12	色相を手がかりにした配色	テキストP69～83、課題プリント、ミニテスト		
	13	トーンまた色相とトーンを手がかりにした配色	テキストP84～91、課題プリント		
	14	トーンまた色相とトーンを手がかりにした配色	テキストP84～91、課題プリント		
	15	配色の基本的な技法	テキストP92～107、課題プリント		
	16	配色の基本的な技法	テキストP92～107、課題プリント		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	パーソナルカラー理論	指導担当者名	小池 久子
実務経験	各企業の色彩アドバイザー、各種団体のカラーに関する講演・講座等に20年従事している		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	経営情報大学科2年
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	色彩の基礎的な理論や体系的な知識を身に付け、色彩検定3級を受験し、その資格を取得することを目標とする		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト、CUSカラーカード185		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	ファッション色彩・インテリア色彩	テキストP109～125、課題プリント
	18	ファッション色彩・インテリア色彩	テキストP109～125、課題プリント
	19	検定対策 答案練習	解答 解説
	20	検定対策 答案練習	解答 解説
	21	検定対策 答案練習	解答 解説
	22	検定対策 答案練習	解答 解説
	23	検定対策 答案練習	解答 解説
	24	検定対策 答案練習	解答 解説
	25	検定対策 答案練習	解答 解説
	26	検定対策 答案練習	解答 解説
	27	検定対策 答案練習	解答 解説
	28	検定対策 答案練習	解答 解説
	29	検定対策 答案練習	解答 解説
	30	検定対策 答案練習	解答 解説
31	期末試験		
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	HP制作演習	指導担当者名	石山 蓮
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: 実験:
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイトの役割(情報の整理・伝達)を理解し、適切なワイヤーフレームを作成 ・Figmaの基本操作(文字・色・画像)および応用機能(コンポーネント・オートレイアウト)を習得 ・プロトタイプ機能を活用し、実際のWebサイトに近い挙動を再現 ・ターゲット視点に基づき、コンセプト立案からデザイン完成までを自力で完遂 		
評価方法 評価基準	<p>最終制作課題の評価の他、出席状況、授業課題としての制作物等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	講師作成のプリントや資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	Webの役割と構造	Webサイトの目的とビジネスにおける役割、情報の階層構造の理解
	2	Webサイトの解剖	既存サイトの分析、ヘッダー・フッター・各パーツの名称と役割の把握
	3	ワイヤーフレーム作成	デザインの設計図作成、情報を整理し骨組みを構築する手法の習得
	4	Figma: 基本操作	フレーム作成、図形描画、塗り・線などの基本プロパティ操作
	5	Figma: 基本操作	テキスト入力、フォント選定、行間・字間の調整とスタイル登録
	6	Figma: パーツ制作	ボタンやアイコンの作成、ヘッダー・フッターの具体的レイアウト構築
	7	コンポーネントの基礎	部品化の概念、一貫性を保持するための共通管理手法の習得
	8	オートレイアウト	要素の自動整列、レスポンシブなサイズ調整を行う実務機能の活用
	9	プロトタイプ: アクション	画面遷移の設定、クリックやホバーによるインタラクションの実装
	10	プロトタイプ: 応用	スクロール固定、スマートアニメートを用いた高度な動きの演出
	11	【課題1】LP制作	特定のテーマに基づいたランディングページの作成
	12	【課題1】LP制作	特定のテーマに基づいたランディングページの作成
	13	【課題1】LP制作	特定のテーマに基づいたランディングページの作成
	14	【課題2】サイト制作	特定のテーマに基づいたwebサイトの作成
	15	【課題2】サイト制作	特定のテーマに基づいたwebサイトの作成
	16	【課題2】サイト制作	特定のテーマに基づいたwebサイトの作成
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	SNS演習	指導担当者名	石山 蓮
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルマーケティングの基礎知識を身につける ・SNSの媒体特性に関する知識を身につける ・SNSマーケティングに関する知識を身につける ・プロジェクトマネジメントに関する基礎知識を身につける ・SNSマーケティング検定の合格を目指す 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	SNSマーケティング検定 公式テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	なぜ今、SNSマーケティングなのか？/グループワーク
	2	デジタルマーケティングの基礎知識と基礎教養①	企業がマーケティングを行う目的・マーケティングの変遷とSNS・企業がSNSを活用する目的/グループワーク
	3	デジタルマーケティングの基礎知識と基礎教養②	企業がマーケティングを行う目的・マーケティングの変遷とSNS・企業がSNSを活用する目的
	4	SNSの媒体特性①	ソーシャルメディアとSNS・SNSをマーケティングに活用するメリット・SNSマーケティングの代表的な施策・代表的なSNS媒体(Facebook)/グループワーク
	5	SNSの媒体特性②	代表的なSNS媒体(X、Instagram)/グループワーク
	6	SNS共通の実務スキル～投稿作成～	各SNSコンテンツに対応した保存形式の基礎知識・効果的なライティングの方法・ミス、トラブルの多いポイント/グループワーク
	7	SNS共通の実務スキル～スチール撮影～	SNS用静止画のポイント・構図について・物撮りの仕方・野外での撮影の仕方・基本的なレタッチについて/グループワーク
	8	SNS共通の実務スキル～動画撮影～	SNS用動画のポイント・動画撮影の仕方・動画編集の仕方/グループワーク
	9	SNS広告①	運用型広告の基本知識・Facebook広告の特徴と出稿の仕方/グループワーク
	10	SNS広告②	X広告の特徴と出稿の仕方/グループワーク
	11	SNS広告③	Instagram広告と出稿の仕方/グループワーク
	12	SNSキャンペーン①	SNSキャンペーンの基礎知識/グループワーク
	13	SNSキャンペーン②	インフルエンサーマーケティング/グループワーク
	14	ユーザーコミュニケーション	炎上とその対策・UGCの活用・エンゲージメントを深める施策/グループワーク
	15	プロジェクトマネジメント	KPI・データ分析・戦略策定・インサイトデータ分析・ソーシャルリスニングと競合調査/グループワーク
	16	検定試験対策/後期演習に向けたグループワーク	検定試験対策/後期演習に向けたグループワーク(業界研究他)
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	SNS演習		指導担当者名	石山 蓮	
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴			実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	経営情報大学科2年		
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して、デジタルマーケティング、SNSの媒体特性、SNSマーケティング、プロジェクトマネジメントに関する理解をより深くする ・SNSマーケティング検定の合格を目指す 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	SNSマーケティング検定 公式テキスト				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	・前期の振り返り ・後期演習内容説明	・前期学習内容振り返り ・後期演習内容の説明		
	18	SNS施策検討①	・前期学習内容振り返り ・ケースに応じたSNSの施策を検討するグループワーク		
	19	SNS施策検討②	・前期学習内容振り返り ・ケースに応じたSNSの施策を検討するグループワーク、発表		
	20	UGC(ユーザー生成コンテンツ)活用 キャンペーン企画①	・前期学習内容振り返り ・UGC活用キャンペーン企画を検討するグループワーク		
	21	UGC(ユーザー生成コンテンツ)活用 キャンペーン企画②	・前期学習内容振り返り ・UGC活用キャンペーン企画を検討するグループワーク、発表		
	22	炎上・危機管理ケーススタディ	・前期学習内容振り返り ・企業SNSでの炎上対応に関するグループワーク、発表		
	23	SNS DM クレーム対応ケーススタディ	・前期学習内容振り返り ・SNS上のDMでのクレーム対応に関するグループワーク、発表		
	24	ゼロベースからの新規SNSアカウント立ち上げ戦略①	・お題発表、グループ分け ・グループワーク:戦略立案の準備(ペルソナシートの作成)		
	25	ゼロベースからの新規SNSアカウント立ち上げ戦略②	・グループワーク:プラットフォーム選定&ポジショニング分析		
	26	ゼロベースからの新規SNSアカウント立ち上げ戦略③	・グループワーク:コンテンツ戦略の策定(コンテンツの柱の設計)		
	27	ゼロベースからの新規SNSアカウント立ち上げ戦略④	・グループワーク:コンテンツ戦略の策定(コンテンツの柱の設計)		
	28	ゼロベースからの新規SNSアカウント立ち上げ戦略⑤	・グループワーク:コンテンツ戦略に基づく具体的な投稿案の作成		
	29	ゼロベースからの新規SNSアカウント立ち上げ戦略⑥	・グループワーク:コンテンツ戦略に基づく具体的な投稿案の作成		
	30	ゼロベースからの新規SNSアカウント立ち上げ戦略⑦	・グループワーク:コンテンツ戦略に基づく具体的な投稿案の作成		
31	ゼロベースからの新規SNSアカウント立ち上げ戦略⑧	・発表資料の準備			
32	ゼロベースからの新規SNSアカウント立ち上げ戦略⑨	・発表、講評			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	商業簿記講義 I	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 14 時間
学習到達目標	日商簿記検定1級の合格をめざし、テキスト中心の基礎力の向上		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、合格トレーニング日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	工事契約、会計方針の変更、商品売買、現金預金	内容理解と例題を通した基礎計算の定着
	2	税効果会計、金銭債権債務	内容理解と例題を通した基礎計算の定着
	3	有価証券、外貨換算会計	内容理解と例題を通した基礎計算の定着
	4	デリバティブ取引、有形固定資産	内容理解と例題を通した基礎計算の定着
	5	リース、無形固定資産、投資その他の資産	内容理解と例題を通した基礎計算の定着
	6	繰延資産、研究開発費、引当金	内容理解と例題を通した基礎計算の定着
	7	退職給付会計、社債、純資産	内容理解と例題を通した基礎計算の定着
	8	本支店、企業結合、合併	内容理解と例題を通した基礎計算の定着
	9	連結会計	内容理解と例題を通した基礎計算の定着
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	商業簿記講義Ⅱ	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 14 時間
学習到達目標	日商簿記検定1級の合格をめざし、テキスト中心の基礎力の向上		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、合格トレーニング日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9	連結会計	内容理解と例題を通じた基礎計算の定着
	10	連結会計	内容理解と例題を通じた基礎計算の定着
	11	株式交換、会社分割	内容理解と例題を通じた基礎計算の定着
	12	外貨建財務諸表項目	内容理解と例題を通じた基礎計算の定着
	13	キャッシュフロー計算書	内容理解と例題を通じた基礎計算の定着
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	商業簿記演習 I	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 14 時間
学習到達目標	日商簿記検定1級の合格をめざし、問題集や模擬試験問題を使った計算力の向上		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、合格トレーニング日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、模擬試験問題		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	15	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	16	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	商業簿記演習 I	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 14 時間
学習到達目標	日商簿記検定1級の合格をめざし、問題集や模擬試験問題を使った計算力の向上		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、合格トレーニング日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	18	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	19	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	20	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	21	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	22	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	商業簿記演習Ⅱ	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 14 時間
学習到達目標	日商簿記検定1級の合格をめざし、問題集や模擬試験問題を使った計算力の向上		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	合格テキスト日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、合格トレーニング日商簿記1級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、模擬試験問題		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	23	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	24	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	25	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	26	模擬試験問題、解説	本試験を意識した問題演習
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	工業簿記講義 I	指導担当者名	高橋 大祐
実務経験		実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: -	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 14 時間
学習到達目標	日商簿記1級、標準原価計算における仕損・減損までの基礎知識の習得と計算力の強化		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日商簿記1級合格テキスト・同トレーニング(TAC出版)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	材料費、労務費、経費会計	引取費用、材料副費、加給金、外注加工賃
	2	部門別原価計算	部門別の構造把握、連立方程式法、階梯式配賦法
	3	部門別原価計算、個別原価計算の仕損	単一基準、複数基準、予算許容額配賦。個別原価計算での仕損の扱い
	4	総合原価計算の基礎と仕損減損	純粋先入先出法、原材料の追加投入、異常仕損・減損
	5	工程別総合原価計算	非累加法
	6	組別・等級別総合原価計算、連産品	工程別組別、等級別、連産品
	7	標準原価計算の基礎	修正パーシャルプラン、実査法変動予算、材料受入価格差異
	8	標準原価計算の基礎	標準工程別総合原価計算、作業区分別原価計算、標準個別原価計算
	9	標準原価計算における仕損・減損	第1法と第2法
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	工業簿記講義Ⅱ	指導担当者名	高橋 大祐	
実務経験			実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科2年	
授業方法	講義: ○	演習: -	実習: - 実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 14 時間	
学習到達目標	予算実績差異分析までの基礎知識の習得と計算力の強化			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	日商簿記1級合格テキスト・同トレーニング(TAC出版)			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	9	標準原価計算における仕損・減損	配合差異、歩留差異	
	10	原価差異の会計処理、本社工場会計	ころがし計算法、一括調整法、内部利益の整理	
	11	直接標準原価計算、予算編成	直接標準原価計算、予算編成解説	
	12	CVP分析、最適セールスマックス	多品種製品のCVP分析、リニアープログラミング	
	13	事業部の業績測定、予算実績差異分析	資本コスト、ROI、RI、総額分析、純額分析	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	工業簿記演習 I	指導担当者名	高橋大祐
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 14 時間
学習到達目標	活動基準原価計算までの基礎知識の習得と計算力の強化。答練や過去問による日商簿記1級合格点到達。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日商簿記1級合格テキスト・同トレーニング・過去問題(TAC出版)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14	予算実績差異分析	セグメント別の差異分析
	15	業務執行上の意思決定	特別注文引受可否、内製か購入か、追加加工の可否の意思決定
	16	設備投資の意思決定	正味現在価値法、内部利益率法、収益性指数法
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	工業簿記演習 I	指導担当者名	高橋大祐
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科2年
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 14 時間
学習到達目標	活動基準原価計算までの基礎知識の習得と計算力の強化。答練や過去問による日商簿記1級合格点到達。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日商簿記1級合格テキスト・同トレーニング・過去問題(TAC出版)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	17	様々な原価計算	ライフサイクル・コストニング、原価企画、品質原価計算、活動基準原価計算
	18	問題演習	弱点論点解説
	19	問題演習	弱点論点解説
	20	答練、過去問	演習と解説、復習
	21	答練、過去問	演習と解説、復習
	22	答練、過去問	演習と解説、復習
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	工業簿記演習Ⅱ	指導担当者名	高橋大祐	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科2年	
授業方法	講義: -	演習: ○	実習: - 実験: -	
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 14 時間	
学習到達目標	答練や過去問による日商簿記1級合格点到達。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	日商簿記1級合格テキスト・同トレーニング・過去問題(TAC出版)			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	22	答練、過去問	演習と解説、復習	
	23	答練、過去問	演習と解説、復習	
	24	答練、過去問	演習と解説、復習	
	25	答練、過去問	演習と解説、復習	
	26	答練、過去問	演習と解説、復習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	Word		指導担当者名	小針 代里子	
実務経験	パソコン教室で23年の指導経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	経営・情報大学科3年	
授業方法	講義: ○	演習: ー	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	MOS Word 365&2021 試験必要な実力を身につける				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び毎時間の小テスト、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数化し、100点満点で評価する。期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。期末成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)の4段階評価とする。A,B,Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365&2021 対策テキスト&問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	文書の管理	文書内を移動する、文書の書式を設定する、文書を保存する、共有する、文書を検査する		
	2	文字、段落、セクションの挿入と書式設定	文字列や段落を挿入する、文字列や段落の書式を設定する、文書にセクションを作成する、設定する		
	3	表やリストの管理	表を作成する、表を変更する、リストを作成する、変更する		
	4	表やリストの管理	表を作成する、表を変更する、リストを作成する、変更する		
	5	参考資料の作成と管理	参照のための要素を作成する、管理する、参照のための一覧を作成する、管理する		
	6	参考資料の作成と管理	参照のための要素を作成する、管理する、参照のための一覧を作成する、管理する		
	7	グラフィック要素の挿入と書式設定	図やテキストボックスを挿入する、図やテキストボックスを書式設定する、グラフィック要素にテキストを追加する、グラフィック要素を変更する		
	8	グラフィック要素の挿入と書式設定	図やテキストボックスを挿入する、図やテキストボックスを書式設定する、グラフィック要素にテキストを追加する、グラフィック要素を変更する		
	9	文書の共同作業の管理	コメントを追加する、管理する、変更履歴を管理する		
	10	文書の共同作業の管理	コメントを追加する、管理する、変更履歴を管理する		
	11	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説		
	12	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説		
	13	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説		
	14	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説		
	15	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説		
	16	期末試験			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	PowerPoint	指導担当者名	小針 代里子
実務経験	パソコン教室で23年の指導経験あり		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科3年
授業方法	講義: ○	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	スライドの新規作成からプレゼン発表まで 基本的な機能と操作方法をを身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist PowerPoint 365&2021 対策テキスト&問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	プレゼンテーションの管理	プレゼンテーションの表示やオプションを変更する、印刷設定を行う スライドショーを設定する、実行する、配布資料、ノートのマスターを変更する
	2	スライドの管理	スライドを挿入する、変更をする スライドを並べ替える、グループ化する
	3	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定	テキストを書式設定する、リンクを挿入する、図を挿入する、書式設定する グラフィックを挿入する、書式設定する、図形を並べ替える、グループ化する
	4	表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入	管理する表を挿入する、書式設定する、グラフを挿入する、変更する SmartArtを挿入する、書式設定する、3Dモデルを挿入する、変更する
	5	画面切り替えやアニメーションの適用	画面切り替えを適用する、設定する、コンテンツにアニメーションを設定する アニメーションと画面切り替えのタイミングを設定する
	6	プレゼンテーションの管理	プレゼンテーションの管理、スライドの管理 テキスト、図形、画像の挿入と書式設定
	7	プレゼンテーションの管理	表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入 画面切り替えやアニメーションの適用
	8	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	9	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	10	模擬試験 期末試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	Excel		指導担当者名	小針 代里子	
実務経験	パソコン教室で23年の指導経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	経営・情報大学科3年	
授業方法	講義: ○	演習: ー	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	4 時間
学習到達目標	MOS Excel 365&2021 試験に必要な実力を身につける				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び毎時間の小テスト、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数化し、100点満点で評価する。期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。期末成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)の4段階評価とする。A,B,Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2021 対策テキスト&問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	ワークシートやブックの管理	ブック内を移動する、ワークシートやブックの書式を設定する、オプションと表示をカスタマイズする、共同作業のためにコンテンツを設定する、ブックにデータをインポートする		
	18	ワークシートやブックの管理	ブック内を移動する、ワークシートやブックの書式を設定する、オプションと表示をカスタマイズする、共同作業のためにコンテンツを設定する、ブックにデータをインポートする		
	19	セルやセル範囲のデータの管理	シートのデータを操作する、セルやセル範囲の書式を設定する、名前付き範囲を定義する、参照する、データを視覚的にまとめる		
	20	セルやセル範囲のデータの管理	シートのデータを操作する、セルやセル範囲の書式を設定する、名前付き範囲を定義する、参照する、データを視覚的にまとめる		
	21	テーブルとテーブルのデータの管理	テーブルを作成する、書式設定する、テーブルを変更する、テーブルのデータをフィルターする、並べ替える		
	22	テーブルとテーブルのデータの管理	テーブルを作成する、書式設定する、テーブルを変更する、テーブルのデータをフィルターする、並べ替える		
	23	数式や関数を使用した演算の実行	参照を追加する、データを計算する、加工する、文字列を変更する、書式設定する		
	24	数式や関数を使用した演算の実行	参照を追加する、データを計算する、加工する、文字列を変更する、書式設定する		
	25	グラフの管理	グラフを変更する、グラフを書式設定する		
	26	グラフの管理	グラフを変更する、グラフを書式設定する		
	27	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説		
	28	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説		
	29	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説		
	30	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説		
31	模擬試験	第1回~第5回模擬試験、解答・解説			
32	期末試験				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランII	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	—		実務経験: —
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科3年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア(自分の生き方や働き方)について考え、計画することを学ぶ ・授業は、自分を知る・他人を知る・社会を知るの3つをキーワードにして展開する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	指導担当者作成のプリントを使用		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション 就職活動の確認	提出書類、履歴書等の書き方他
	2	就職活動の確認	自己PR・志望理由の確認
	3	言葉遣い	間違いやすい敬語の復習
	4	ビジネスメールの作り方	ビジネスメールの定型 ビジネスメールの注意点
	5	電話対応	正しい電話の受け方、かけ方
	6	キャリアデザインとは	自分を知る・他人を知る・社会を知
	7	コミュニケーションするとは	正確に伝えること ハウレンソウの大切さ
	8	自分を発見しよう	マインドマップの作成
	9	自分のPOPを作ろう	自分の特徴を知ろう
	10	自分をアピールしよう	自分を上手にアピールするには
	11	コンビニの弁当から職業を考える	職業と業種
	12	憧れの人に学ぶ	人間の才能とは
	13	未来予想図を作る	逆算思考で考える・MustとWhatを整理しよう
	14	金銭感覚について	未来予想図をもとにお金について考える
	15	生涯にいくら稼げるか	年収・年金から収入を考える
	16	期末試験	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	専門実務ⅡA	指導担当名	小原 美和		
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴			実務経験: 有	
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科3年		
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: -	実験: -	
単位数	4 単位	総時間	120 時間	週時間数 4 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「ファイナンシャルプランニング技能検定3級」の合格を目指す ・受験に向けて「家計」に関わる金融・税金・不動産・住宅ローン・保険の基本的な知識を習得する ・経済面で賢く生き抜くためライフイベントに向けた資産運用などの知識を習得し、自らの生活に活かす 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	わかって合格FPテキスト・問題集(TAC)				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	ライフプランニングと資金計画	ライフデザインに応じたライフプランを考える①		
	2	ライフプランニングと資金計画	ライフデザインに応じたライフプランを考える②		
	3	ライフプランニングと資金計画	社会保険・公的年金について①		
	4	ライフプランニングと資金計画	社会保険・公的年金について②		
	5	リスクマネジメント	生命保険について①		
	6	リスクマネジメント	生命保険について②		
	7	リスクマネジメント	損害保険について		
	8	金融資産運用	主な経済、景気に関する指数や金融市場について		
	9	金融資産運用 金融資産運用 金融資産運用	金融商品の知 識を身につける	金融商品の知 識を身につける	金融商品の知 識を身につける
	10	タックスプランニング	所得税について基礎から学ぶ		
	11	タックスプランニング	税額の計算の方法と税額控除について①		
	12	タックスプランニング	税額の計算の方法と税額控除について②		
	13	復習	ライフプランニングと資金計画 / リスクマネジメント		
	14	復習	金融資産運用 / タックスプランニング		
	15	復習	不動産 / 相続・事業継承		
	16	確認テスト			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	専門実務ⅡA	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科3年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「ファイナンシャルプランニング技能検定3級」の合格を目指す ・受験に向けて「家計」に関わる金融・税金・不動産・住宅ローン・保険の基本的な知識を習得する ・経済面で賢く生き抜くためライフイベントに向けた資産運用などの知識を習得し、自らの生活に活かす 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	わかって合格FPテキスト・問題集(TAC)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	ライフプランニングと資金計画	試験対応問題演習①
	18	リスクマネジメント	試験対応問題演習②
	19	金融資産運用	試験対応問題演習③
	20	タックスプランニング	試験対応問題演習④
	21	不動産	試験対応問題演習⑤
	22	相続・事業継承	試験対応問題演習⑥
	23	学科答練(第1,2回)	解答・解説
	24	学科答練(第3,4回)	解答・解説
	25	学科答練(第5,6回)	解答・解説
	26	学科答練(第7,8回)	解答・解説
	27	学科答練(第9,10回)	解答・解説
	28	学科答練(第11,12回)	解答・解説
	29	要点まとめ①	ライフプランニングと資金計画 / リスクマネジメント
	30	要点まとめ②	金融資産運用 / タックスプランニング
31	要点まとめ③	不動産 / 相続・事業継承	
32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門実務ⅡB	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験： 有
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科3年
授業方法	講義：◎	演習：○	実習：－ 実験：－
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「ファイナンシャルプランニング技能検定3級」の合格を目指す ・受験に向けて「家計」に関わる金融・税金・不動産・住宅ローン・保険の基本的な知識を習得する ・経済面で賢く生き抜くためライフイベントに向けた資産運用などの知識を習得し、自らの生活に活かす 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	わかって合格するFPテキスト・問題集(TAC)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	不動産	不動産に関する知識を基本から学ぶ①
	2	不動産	不動産に関する知識を基本から学ぶ②
	3	不動産	不動産に関する知識を基本から学ぶ③
	4	不動産	不動産の税金・有効活用について①
	5	不動産	不動産の税金・有効活用について②
	6	不動産	不動産の税金・有効活用について③
	7	相続・事業継承	相続について基本から学ぶ①
	8	相続・事業継承	相続について基本から学ぶ②
	9	相続・事業継承	相続について基本から学ぶ③
	10	相続・事業継承	財産の評価について①
	11	相続・事業継承	財産の評価について②
	12	相続・事業継承	財産の評価について③
	13	復習	ライフプランニングと資金計画 / リスクマネジメント
	14	復習	金融資産運用 / タックスプランニング
	15	復習	不動産 / 相続・事業継承
	16	確認テスト	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ファイナンシャルプランニング対策	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科3年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「ファイナンシャルプランニング技能検定3級」の合格を目指す ・自分の得意、不得意を明らかにし、不得意を克服する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	答案練習問題 わかって合格するFPテキスト・問題集(TAC)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	ライフプランニングと資金計画	試験対応問題演習①
	18	リスクマネジメント	試験対応問題演習②
	19	金融資産運用	試験対応問題演習③
	20	タックスプランニング	試験対応問題演習④
	21	不動産	試験対応問題演習⑤
	22	相続・事業継承	試験対応問題演習⑥
	23	実技答練(第1,2回)	解答・解説
	24	実技答練(第3,4回)	解答・解説
	25	実技答練(第5,6回)	解答・解説
	26	実技答練(第7,8回)	解答・解説
	27	実技答練(第9,10回)	解答・解説
	28		
	29	要点まとめ①	ライフプランニングと資金計画 / リスクマネジメント
	30	要点まとめ②	金融資産運用 / タックスプランニング
31	要点まとめ③	不動産 / 相続・事業継承	
32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	マーケティング	指導担当者名	石山 蓮
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科3年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基本概念(ターゲティング、4P、KGI・KPI等)を理解し、自ら説明できるようになる。 ・仮想の製品・サービスに対して、マーケティング戦略を構築・発表できる力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	1冊目に読みたい デジタルマーケティングの教科書		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	講義:基礎知識	マーケティングとは
	2	講義:基礎知識	デジタルマーケティングとは
	3	講義:基礎知識	デジタルマーケティングのゴール
	4	講義:基礎知識	デジタルマーケティングの「PDCA」
	5	演習:基礎知識	各グループで特定のテーマに基づいた目標を設定
	6	演習:基礎知識	各グループで特定のテーマに基づいたPDCA考案
	7	講義:マーケティング設計	KGIからKPIの考案
	8	講義:マーケティング設計	ブランディングを行う目的
	9	講義:マーケティング設計	ターゲットユーザーを設定
	10	講義:マーケティング設計	ペルソナの作成
	11	講義:マーケティング設計	カスタマージャーニーの考案
	12	演習:マーケティング設計	各グループで特定のテーマに基づいたKGI/KPI設定
	13	演習:マーケティング設計	各グループで特定のテーマに基づいたブランディング設計
	14	演習:マーケティング設計	各グループで特定のテーマに基づいたターゲット設定
	15	演習:マーケティング設計	各グループで特定のテーマに基づいたペルソナ・カスタマージャーニー設定
	16	確認テスト	マーケティングとは設計における重要語句の確認テスト
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	マーケティング		指導担当者名	石山 蓮	
実務経験	企画・デザイン会社に8年間従事した経歴			実務経験:	有
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科3年		
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	60 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基本概念(ターゲティング、4P、KGI・KPI等)を理解し、自ら説明できるようになる。 ・仮想の製品・サービスに対して、マーケティング戦略を構築・発表できる力を身につける。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	1冊目に読みたい デジタルマーケティングの教科書				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	演習Ⅰ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(企画考案)		
	18	演習Ⅰ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(市場調査)		
	19	演習Ⅰ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(資料作成)		
	20	演習Ⅰ: 仮想企業での実践的マーケティング	演習Ⅰの計画報告会		
	21	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(予算考案)		
	22	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(企画考案)		
	23	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(市場調査)		
	24	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(資料作成)		
	25	演習Ⅱ: 仮想企業での実践的マーケティング	演習Ⅱの計画報告会		
	26	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(予算考案)		
	27	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(企画考案)		
	28	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	演習Ⅲの中間報告会、ブラッシュアップ		
	29	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(市場調査)		
	30	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	各グループで特定のテーマに対し、マーケティングの視点を踏まえた企画書作成(資料作成)		
31	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	演習Ⅲの計画報告会			
32	演習Ⅲ: 仮想企業での実践的マーケティング	演習Ⅲの計画報告会			
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	専門応用Ⅱ	指導担当名	佐藤 啓三
実務経験	大手流通企業での販促部門責任者、総合広告代理店での企画・制作部門責任者		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	経営・情報大学科3年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: 実験:
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<p>「マーケティング」は一部の人たちが理解して取り組みよくなった時代から、今やビジネスパーソンの誰もがマーケティングを意識しなければならぬ時代となった。そのマーケティングの中でもとりわけ重要な取り組みとして「ブランドづくり」がある。かつては資金力も人材力も備わった大企業が取り組むものというイメージもあったが、今では企業の規模に関わらず、むしろ小さな企業ほど「ブランドづくり」に取り組むべきといわれ、製品のみならず、企業、地域、観光など、様々な分野での「ブランドづくり」が行われている。本科目では、「ブランド・マネジメントの基本」を学び、仮想製品(商品)等のブランディングプランを立てて発表できることを到達目標とする。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	基本は適宜資料を配布(参考図書購入の場合もあり)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1-(1) ブランドとは何か? (2) ブランドの価値構造とブランド類型	1- ・ブランドの本質、製品開発とブランド構築、ブランドの機能と効果 ・ブランドの価値構造、ブランドの類型
	2	1-(3) ブランド・エクイティ 1-(4) ブランド・ロイヤルティ	・ブランドエクイティの5つの構成要素 ブランドロイヤルティとは?
	3	1-(5) ブランド・アタッチメント 1-(6) ブランド・パーソナリティ	・ブランド・アタッチメントとは? ブランド・パーソナリティとは?
	4	1-(7) ブランド・リレーションシップ 1-(8) ブランド・カテゴリーライゼーション	・ブランド・リレーションシップとは? ブランド・カテゴリーライゼーションとは?
	5	1-(9) ブランド拡張 1-(10) ブランド・コミュニティ	・ブランド拡張の基本概念 ・ブランドコミュニティとは?
	6	1-(11) ブランド・オーセンシティ 1-(12) ブランド要素の選択	・ブランド・オーセンシティの概要 ・ブランド要素、ブランド要素の選択基準
	7	1-(13) ブランドの管理 1-(14) マネジメントの指針としてのブランド	・管理をしていく上での戦略各種 ・ブランドパワーの評価、測定
	8	1-(15) ブランド組織のマネジメント 2-(1) 消費者(顧客)理解	・ブランド単位の損益計算書、ブランド・ポートフォリオ ・消費者(顧客)理解のマネジメント
	9	2-(2) 個人としての消費者① 2-(3) 個人としての消費者②	・知覚と学習についての概要 ・記憶と態度についての概要
	10	2-(4) 個人としての消費者③ (5) 社会的存在としての消費者①	2- ・意思決定についての概要 アイデンティティ、家族、集団について
	11	2-(6) 社会的存在としての消費者② 2-(7) 消費者へのアプローチ①	・クチコミ、ステイタス、文化について セグメンテーションとコミュニケーションについて
	12	2-(8) 消費者へのアプローチ② 2-(9) 消費者へのアプローチ③	・店頭マーケティングについて タッチポイントごとのアプローチと一貫性について
	13	2-(10) 消費者へのアプローチ④ 2-(11) 消費者へのアプローチ⑤	・パレートの法則、CRM、インサイトについて ストーリーを持って伝える方法について
	14	2-(12) ブランドとファン① 2-(13) ブランドとファン②	・メーカー(売り手)と消費者双方での共創のマーケティング事例 ・理解する力と伝える力について
	15	2-(14) ブランドとファン③ 2-(15) ブランドとファン④	・ファンづくりについて ・ころをつかむマーケティングについて
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	専門応用Ⅱ	指導担当名	佐藤 啓三
実務経験	大手流通企業での販促部門責任者、総合広告代理店での企画・制作部門責任者		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	経営・情報大学科3年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: 実験:
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	<p>「マーケティング」は一部の人が理解して取り組みよくなった時代から、今やビジネスパーソン誰もがマーケティングを意識しなければならない時代となった。そのマーケティングの中でもとりわけ重要な取り組みとして「ブランドづくり」がある。かつては資金力も人材力も備わった大企業が取り組むものというイメージもあったが、今では企業の規模に関わらず、むしろ小さな企業ほど「ブランドづくり」に取り組むべきといわれ、製品のみならず、企業、地域、観光など、様々な分野での「ブランドづくり」が行われている。本科目では、「ブランド・マネジメントの基本」を学び、仮想製品(商品)等のブランディングプランを立てて発表できることを到達目標とする。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	基本は適宜資料を配布(参考図書を購入の場合もあり)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	3-(1) ブランドづくり ① 3-(2) ブランドづくり ②	・強いブランドとは何か? ・ブランドづくりのスタートとは?
	17	3-(3) ブランドづくり ③ 3-(4) ブランドづくり ④	・強いブランドの強力な土台とは何か? 目に見えないブランド価値を形にしていけることは?
	18	3-(5) ブランドづくり ⑤ 3-(6) ブランドづくり ⑥	・広告に頼らないブランドづくりとは? ・強いブランドの価格戦略とは?
	19	3-(7) ブランドづくり ⑦ 3-(8) ブランドづくり ⑧	・ブランド拡張のリスク、ブランドが失敗する理由とは? ・ブランドづくりについてのまとめ
	20	4-(1) 地域ブランド ① 4-(2) 地域ブランド ②	・地域ブランドとは? 地域ブランドづくりでぶつかる壁とは?
	21	4-(3) 地域ブランド ③ 4-(4) 地域ブランド ④	・実践ガイド編
	22	5-(1) 観光ブランド ① 5-(2) 観光ブランド ②	・観光のブランドづくりとは? 強いブランドはどうやって生まれるのか?
	23	5-(3) 観光ブランド ③ 5-(4) 観光ブランド ④	・地域の尖がり、1番、シンボルは何か? ・食で地域を強くする
	24	5-(5) 観光ブランド ⑤ 5-(6) 観光ブランド ⑥	・ブランドづくりのステップ ・量から質の観光へのシフト
	25	6-(1) 企業ブランド ① 6-(2) 企業ブランド ②	・ビジネスで一番大切なこととは何か? ・サステナブルカンパニーとは?
	26	6-(3) 企業ブランド ③ 6-(4) 企業ブランド ④	・経営理念と企業ブランドとの関係 ・企業内(職場)の空気と文化について
	27	7-(1) ブランディング 演習 ① 7-(2) ブランディング 演習 ②	・企画及び企画書の作り方 ・効果的なプレゼンテーションの仕方とは?
	28	7-(3) ブランディング 演習 ③ 7-(4) ブランディング 演習 ④	・プランニング(企画書作成)
	29	7-(5) ブランディング 演習 ⑤ 7-(6) ブランディング 演習 ⑥	・プランニング(企画書作成)
30	7-(1) ブランディング 演習 ⑦ 7-(5) ブランディング 演習 ⑧	・プレゼンテーション(期末試験)実施 講評、振り返り	
32			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-		実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義: ○	演習: -	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 6 時間
学習到達目標	2年間の学びの中で各自テーマを選択し、進路に合わせた内容で研究を深め、プレゼンテーション用の資料にまとめる。学年末にまとめた資料をもとに各自、研究発表を行う。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28	テーマの選定	各自研究のテーマについて決定する
	29	研究の進め方	選択したテーマに沿って研究方法等を検討し、研究目的、研究方法を各自プレゼンテーションする
	30	各自研究 I	研究計画を作成し、研究を進める (関係資料等の教員指導などを含む)
31	中間検討 各自研究 II	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、仕上げに向けて修正を加える プレゼンテーションの練習	
32	卒業研究の取りまとめ 報告会	卒業研究作成指導、プレゼンテーション指導、報告要旨集作成など 研究成果の発表	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎ⅡA	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な一般知識やビジネスマナーを習得し、適切な言動や立ち居振る舞いができる ・「わかる」から「できる」「やっている」状態へ変わることを重視、日常生活で実践できることを目指す 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	秘書検定3級クリアテスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	・秘書にもとめられる能力 ・求められる能力と身だしなみ	・秘書としての心構え ・社会人として求められること
	2	・秘書の機能 ・上司と秘書の関係	・秘書の業務 ・身だしなみ、挨拶の基本
	3	・接遇のマナー	・接遇とは ・来客対応 ・名刺の取り扱い
	4	・敬語と接遇用語	・尊敬語 ・謙譲語 ・丁寧語 ・接遇用語
	5	・電話応対	・ビジネス電話のかけ方、受け方、取次ぎ方
	6	・報告、連絡、相談 ・指示命令の受け方	・報告、連絡、相談の意味、ポイント ・指示命令の受け方
	7	・コミュニケーションスキル～聞き方	・聞くスキル ・ラポールスキル
	8	・コミュニケーションスキル～伝え方	・3部構成で伝えるスキル ・スピーチのポイント
	9	・コミュニケーションスキル～会話スキル	・会話スキルをアップする
	10	・ホスピタリティ	・ホスピタリティとは ・ホスピタリティの実践
	11	・ビジネスメールのマナー	・ビジネスメールのマナー ・ビジネスメールの書き方
	12	・文書の作成、文書の取り扱い	・社内文書、社外文書 ・文書の受信、発信業務 ・郵便の知識
	13	・オフィス機器と事務用品	・主なオフィス機器と事務用品
	14	・ファイリング、資料の整理 ・環境整備	・ファイリングの目的と種類 ・資料の管理 ・オフィスの清掃と環境整備
	15	・交際の業務	・慶事に関する知識 ・弔事に関する知識
	16	・総合復習 期末テスト	・総合練習 ・期末テスト
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	ビジネス基礎ⅡB	指導担当者名	小原 美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会において必要不可欠な金融知識と判断力を身につける ・日常生活における幅広い金融テーマについて学び、健全な経済的意思決定ができる力を養う ・変化する金融環境に対応するための基礎的な知識と情報リテラシーも身につけて金融的な土台を築く 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	はじめての金融リテラシー(公式テキスト)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	金融リテラシーとは何か
	2	家計管理の基本	家計の収支と予算
	3	貯蓄と目標設定	ライフプランと資金計画
	4	金融機関	銀行・金融機関の役割とサービス
	5	キャッシュレス社会	決済手段(クレカ・電子マネー・QR)
	6	借金と信用	ローン・クレジット・信用スコア
	7	保険の基礎	生命保険・損害保険・公的保険
	8	税金のしくみと社会保障	所得税・年金・医療保険
	9	投資の基本①	リスクとリターン・複利
	10	投資の基本②	株式・債券・投資信託
	11	金融詐欺とトラブル対策	詐欺事例・消費者保護
	12	金融とテクノロジー	フィンテック・AI・仮想通貨
	13	ライフイベントとお金	進学・就職・結婚・老後
	14	金融情報の読み方	ニュース・広告・商品比較
	15	要点整理	まとめ演習
	16	期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門概論ⅡA		指導担当者名	小原 美和	
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	経営・情報大学科 4年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: -	実験: -	
単位数	1 単位	総時間	30 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・金融業界全体の構造を理解し、各金融業界の役割や特徴を説明できる ・金融業界で求められる能力を理解できる ・金融ニュースを読み解けるようになる 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	新聞(日本経済新聞など)・金融関連ニュース・各金融機関の会社案内など				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	金融業界とは何か	金融の役割、日本経済との関係、金融業界の全体像		
	18	銀行業界研究①	メガバンク・地方銀行・ネット銀行の違い		
	19	銀行業界研究②	銀行の仕事内容(窓口・営業・融資・事務)		
	20	信用金庫・信用組合研究	地域金融機関の役割と地域貢献		
	21	証券業界研究	株式・投資信託・資産運用の基礎		
	22	保険業界研究	生命保険・損害保険・保険営業の仕事		
	23	クレジット・カード・リース業界	キャッシュレス社会と金融サービス		
	24	フィンテック研究	AI・スマホ決済・ネット金融の最新動向		
	25	金融業界で必要な知識	金利・為替・株価・NISAなど基礎知識		
	26	金融ニュースを読む	新聞記事や経済ニュースの読み取り		
	27	金融業界の職種研究	営業職・事務職・総合職・専門職の違い		
	28	金融業界で求められる人物像	コミュニケーション力・信頼・正確性		
	29	企業研究実践	志望企業の特徴・経営理念・強み分析		
	30	業界研究発表準備	志望企業研究プレゼンテーション準備		
31	業界研究発表	志望企業研究プレゼンテーション			
32	期末試験				
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。					
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	専門概論ⅡB	指導担当者名	佐藤 啓三口
実務経験	大手流通企業での販促部門責任者、総合広告代理店での企画・制作部門責任者口		実務経験： 有
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義：○	演習：一	実習：- 実験：-
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	流通業・サービス業だけではなく、今では全てのビジネスパーソンに欠かすことのできない「消費者を知る」という分野についての基礎知識を学び、「消費者行動の特性」について理解できるようになることを目指す。また、「消費者行動」はマーケティング展開においても大元になるところであることも同時に理解し、期末には「消費者行動を理解した上」で仮想店舗(または商品)の販促プランを立てて発表できることを到達目標とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	1からの消費者行動 (碩学社)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	1. 個人としての消費者	・イントロダクション「人は生まれつき消費者」 ・マーケティングの基本と消費者行動
	2	2. 知覚	・露出と注意 ・丁度価値差異とマーケティング ・組織化、解釈
	3	3. 学習	・レスポネント条件付け、オペラント条件付け ・観察学習(観察学習に基づいた具体的な行動事例)
	4	4. 記憶	・記憶のメカニズムと短期記憶 ・長期記憶と連想ネットワーク、ノスタルジア
	5	5. 態度	・関連事項：売上のつくり方(売上を形成する構成要素) ・関与 ・態度、態度モデル
	6	6. 意思決定 7. 個人消費へのマーケティング	・情報探索、代替品の評価 ・購買決定、購買後の行動 ・セグメンテーション ・デモグラフィックス、サイコグラフィックス
	7	8. コミュニケーション 9. 店頭マーケティング	・発信源効果、メッセージ効果 ・説得の精緻化見込みモデル ・状況、インスタマーチャンドライジング ・非計画購買
	8	11. 社会的存在としての消費者 12. 家族	・アイデンティティと消費、アイデンティティとは? ・アイデンティティと社会からの期待 ・家族の購買意思決定 ・家族のライフサイクル、消費者としての子供の社会化
	9	演習①・企画(企画書)のつくり方 演習②・プレゼンの仕方	・簡潔明瞭な企画(企画書)作成のポイント ・効果的なプレゼンテーションのポイント
	10	演習③・消費者行動を応用した販促企画作成	・オリエンテーションとは? ・オリエンテーションで得た内容をもとに企画概要(全体イメージ)を策定
	11	演習③・消費者行動を応用した販促企画作成	・企画書(ppt)作成
	12	演習④・プレゼン(期末試験)	・プレゼン準備(自己リハーサル) ・プレゼン実施(採点) ・講評
	13	12. 集団 13. ステイタス	・準拠集団 ・オピニオン・リーダー、クチコミ ・見せびらかしの消費 ・トリクル・ダウン消費、文化資本
	14	15. 文化 14. サブ・カルチャー	・文化 ・聖なる消費と俗なる消費、儀式としての消費 ・マイクロカルチャー ・エスニシティ、ステレオタイプ ・総まとめ
	15	期末試験	
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門演習ⅡA	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-		実務経験:
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標	法人税の基礎知識と計算力を身につけ、全経主催の法人税実務能力検定の合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	テキスト、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9	法人税法の概要、課税標準	納税義務者と課税所得等の範囲、収益の計上時期
	10	税額計算、同族会社	法人税額の計算、同族会社の意義
	11	資産評価等	棚卸資産、有価証券、資産の評価損益
	12	減価償却	受贈益、償却方法の変更
	13	繰延資産、租税公課	繰延資産、所得税額の控除
	14	受取配当金、役員給与等	配当等の額の範囲、役員等の範囲
	15	寄付金、交際費等	寄付金の額、交際費の額、損金不算入額
	16	貸倒損失、貸倒引当金	貸倒引当金
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門演習ⅡA	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-		実務経験:
開講時期	通期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	テキスト、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	圧縮記帳等	圧縮記帳制度の概要、国庫補助金等
	18	外貨建取引等	外貨建取引等の換算、為替予約差額の配分
	19	欠損金の繰越	繰越欠損金
	20	その他の用語	組織再編成
	21	問題練習	模擬試験
	22	問題練習	模擬試験
	23	問題練習	模擬試験
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	専門演習ⅡB	指導担当者名	大坂 友子
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間
		週時間数	6 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・所得税法について基本的な考え方を理解する。 ・源泉徴収や確定申告の基本的な考え方を理解し、実務において確定申告書等を作成できるようにする。 ・全経が主催する所得税法能力検定試験2級の合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	所得税法テキスト・所得税法直前模試2級(全8回)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27	所得税の概要	所得の意義と計算期間、納税義務者の範囲、納税地など
	28	所得の内容とその計算方法Ⅰ	利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得
	29	所得の内容とその計算方法Ⅱ	退職所得、山林所得、譲渡所得、一時所得、雑所得
	30	課税標準、所得控除と課税総所得金額	所得金額の総合
31	所得税の計算	算出税額の計算、税率、税額控除、確定申告	
32	所得税の申告・納付等の手続	確定申告、納付、還付、修正申告、更正の請求など	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門演習ⅡC	指導担当者名	和泉 一彰
実務経験	-	実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	1 単位	総時間	30 時間
		週時間数	2 時間
学習到達目標	相続税の基本知識を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	消費税法能力検定試験公式テキスト3級/2級(ネットスクール)・消費税法2級直前模試(全8回)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	相続税法の概論	相続税法入門
	18	民法基礎知識	民法
	19	相続税額の計算Ⅰ	課税範囲、課税価格
	20	相続税額の計算Ⅰ	非課税財産、特例
	21	相続税額の計算Ⅱ	総額
	22	相続税額の計算Ⅱ	総額
	23	相続税額の計算Ⅲ	算出相続税額
	24	相続税額の計算Ⅲ	控除
	25	贈与税額の計算	贈与税額の計算
	26	問題演習	模擬試験
	27	問題演習	模擬試験
	28	問題演習	模擬試験
	29	問題演習	模擬試験
	30	問題演習	模擬試験
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	コンピュータ会計	指導担当者名	高橋大祐
実務経験		実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義: ○	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	60 時間 週時間数 4 時間
学習到達目標	会計ソフトの操作方法・コンピュータ会計の知識の学習を通して、 日常の取引の仕訳入力、月次の残高試算表の確認方法を習得する。 習得した知識・技術を以って、コンピュータ会計能力検定3級合格を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	弥生School コンピュータ会計基本テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	弥生会計のインストール、テキスト第2章	インストール、入力や確認の仕方について
	2	テキスト第3,4章	頻出経費の確認、実際の仕訳入力体験
	3	テキスト第5章	検定問題に近い形式の資料を一緒に入力する
	4	テキスト第5賞	検定問題に近い形式の資料を一緒に入力する
	5	過去問第3問	過去問第3問を実際に入力する
	6	過去問第4問	入力したデータをもとに、第4問を解くために見るべき場所の解説
	7	過去問第1,2問対策	第1,2問を解くために必要な最低限の知識をつける
	8	過去問演習	過去問演習
	9	過去問演習	過去問演習
	10	過去問演習	過去問演習
	11	過去問演習	過去問演習
	12	過去問演習	過去問演習
	13	過去問演習	過去問演習
	14	過去問演習	過去問演習
	15	過去問演習	過去問演習
	16	過去問演習	過去問演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	専門応用Ⅲ		指導担当者名	高橋 幸代	
実務経験	IT企業に18年間従事した経歴			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	経営・情報大学科 4年	
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: -	実験: -	
単位数	4 単位	総時間	120 時間	週時間数	8 時間
学習到達目標	MOS Word 365 Expert 試験に必要な実力を身につける				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365 Expert 対策テキスト&問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	文書のオプションと設定の管理	文書とテンプレートを管理する、共同作業用に文書を準備する、言語オプションを使用する、設定する		
	2	文書のオプションと設定の管理	文書とテンプレートを管理する、共同作業用に文書を準備する、言語オプションを使用する、設定する		
	3	高度な編集機能や書式設定機能の利用	文書のコンテンツを検索する、置換する、貼り付ける、段落レイアウトのオプションを設定する、スタイルを作成する、管理する		
	4	高度な編集機能や書式設定機能の利用	文書のコンテンツを検索する、置換する、貼り付ける、段落レイアウトのオプションを設定する、スタイルを作成する、管理する		
	5	ユーザー設定のドキュメント要素の作成	文書パーツを作成する、変更する、ユーザー設定のデザイン要素を作成する、索引を作成する、管理する、図表一覧を作成する、管理する		
	6	ユーザー設定のドキュメント要素の作成	文書パーツを作成する、変更する、ユーザー設定のデザイン要素を作成する、索引を作成する、管理する、図表一覧を作成する、管理する		
	7	高度なWord機能の利用	フォーム、フィールド、コントロールを管理する、マクロを作成する、変更する、差し込み印刷を行う		
	8	高度なWord機能の利用	フォーム、フィールド、コントロールを管理する、マクロを作成する、変更する、差し込み印刷を行う		
	9	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説		
	10	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説		
	11	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説		
	12	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説		
	13	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説		
	14	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説		
	15	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説		
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	専門応用IV	指導担当者名	高橋 幸代
実務経験	IT企業に18年間従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	経営・情報大学科 4年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間 週時間数 8 時間
学習到達目標	MOS Excel 365&2021 Expert 試験に必要な実力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画	17	ブックのオプションと設定の管理	ブックを管理する、共同作業のためにブックを準備する、言語オプションを使用する、設定する
	18	ブックのオプションと設定の管理	ブックを管理する、共同作業のためにブックを準備する、言語オプションを使用する、設定する
	19	データの管理と書式設定	既存のデータを使用してセルに入力する、データに表示形式や入力規則を適用する、詳細な条件付き書式やフィルターを適用する
	20	データの管理と書式設定	既存のデータを使用してセルに入力する、データに表示形式や入力規則を適用する、詳細な条件付き書式やフィルターを適用する
	21	高度な機能を使用した数式およびマクロの作成	関数で論理演算を行う、関数を使用してデータを検索する、高度な日付と時刻の関数を使用する、データ分析を行う、数式のトラブルシューティングを行う、簡単なマクロを作成する、変更する
	22		
	23	高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理	高度な機能を使用したグラフを作成する、変更する、ピボットテーブルを作成する、変更する、ピボットグラフを作成する、変更する
	24		
	25	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	26	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	27	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	28	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	29	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	30	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	31	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	32		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			